

みんなの広場



※上のイラストは、題字と同じ内容を指文字と手話で表したものです。

(題字は千葉理事長)



みんなでひとつになった 「福祉の里まつり」

～たばしね学園小学部 舞台発表～

11月6日、前沢明峰支援学校・白梅の園・たばしね学園の3施設合同の「福祉の里まつり」が開催されました。今年も晴天に恵まれ、盛況のうちに終わることができました。

主な内容

- シリーズ「続・精神障がい者への支援」
その③(最終回)…………… 2
- 松山荘の地域移行支援の紹介
「さぽーとセンターフルール」等の紹介…… 3
- ジョブコーチ奮闘記、
「趣味の陶芸」始めませんか?…………… 4
- 中山の園 バリアフリー改修工事…………… 5
- つつじ利用者の高齢化対策、優秀勤労障がい者県知事表彰、
ご寄附・ご寄贈の紹介、永年勤続表彰式…………… 6

シリーズ続・精神障がい者への支援

その③

平成21年度に連載しました本シリーズですが、精神障がい者への支援について今年度もその理解を深めるため、全3回のシリーズでお届けしました。今回が最終回です。

教えて！相談支援業務における「コミュニケーション」のとり方は？

相談支援センターさくら

利用者の方は、先が見えずにいる状態で、たくさんの不安を抱いて相談に来ますので、安心して話ができる雰囲気をつくるのが何より大切です。最初は、まとまりのない訴えであっても、聞き役になり、ご本人の言葉を使って時々話をまとめ、気づきを促しながら、全体像から主訴をつかんで情報提供を行っていきます。



北上市の中心部にあり
アクセスも便利です

精神障がいを持つ方は、病気により情報処理能力が下がってしまっていることが多く、こちらが一度に話す混雑させてしまうので、相手のペースに合わせて一つひとつ確認しながら進めていきます。また、自己決定し、行動するのはご本人ですので、写真入りのパンフレット

を用いたり、一緒に見学したり、その方の理解しやすい方法で説明することも大切です。

とにかく、利用者さん自身が地域の中で自分らしい生活をしていくことを、支援ポイントとして関わるのが大切ですよ。

■ここが知りたいQ&A

Q1 利用者の要求が強く、人の話を聞き入れない場合の対応は？

A1 まず、相手の要求をきちんと聴いて受けとめたうえで、業務の枠組みの中で対応することになります。話しかけの際には、提案など表現の工夫を意図して行い、相談を積み重ねていくことが、良好な関係を築くための一歩となるでしょう。

Q2 統合失調症の方が、うつ状態時に何度もマイナスイラスト思考な話をしてきた時の聞き方は？

A2 うつ状態に対しては、患者さんの苦しさを受け止め、共感的な態度で話を聴くこと（傾聴）が基本となります。その際には、言葉以外の行動にも注意し、言葉の背景にある感情を受け止める姿勢が求められます。

（相談支援専門員 高橋 美香子）

心の居場所

「ふらっと」の取り組み

精神障がいは、安心できる場所の「場」と、仲間や交流の「人」という要素で構成された、心の居場所を探している病気ともいわれます。

心休まる居場所を見出すことが難しくなると、病状悪化の要因ともなりかねません。仕事や各種訓練、生活能力を身につけることも大切ですが、悩みや不安を相談し、安心して過ごすことができる居場所を持つことが、社会参加のきっかけとなり、そこでの当事者間での交流が、障がいの認知や受容の促進に有効となります。

「ふらっと」では、自立と地域生活を支えていく上で大切な居場所の提供を、平成19年7月の開設当初から行ってきた。利用に際しては、「ここは何もしない所です。」と説明します。これは、「あなたがあるがままに受け入れたい、安心して過ごしてください」という、「ふらっと」

の思いが凝縮した言葉なのです。

利用のスタイルも様々です。うつ病のAさんは、自転車で片道20分の距離を、午前午後の決まった時間に必ず訪れ、趣味



「ふらっと」ロゴマーク



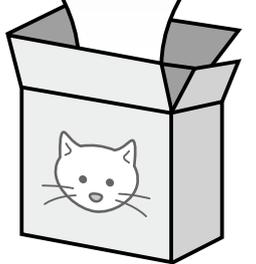
ライフワークの絵を「居場所」で

の絵を描く日課を3年以上続けています。高校卒業後、10年以上自宅に引きこもっていたBさん。ちょっとしたきっかけで利用を始めて2年、現在は就労系事業所にも通い始めました。統合失調症のCさん。忘れた頃に汗だくで自転車で乗り付け、珈琲を飲み、数分間滞在して帰ります。

誰にも強制されることなく、現状の自分に合わせて自然な形で必要な支援を受け、自身が力をつけていく過程を大事にしていく。その上で、より専門的な支援に結び付けていくことが、心の居場所としての「ふらっと」の役割だと考えています。

（中山の園管理センター地域支援部 地域福祉主査 阿部 明典）

「宮町さぼーとセンター」お引っ越し！ 「さぼーとセンターフルール」へ



新「さぼーとセンターフルール」

り、「さぼーとセンターフルール」と、フランス語で「花」を意味する名称に決定しました。利用者、職員ともに新たな気持ちでスタートを切るようになりました。

ここの活動としては、木工作業や手芸活動、調理実習を中心に、カラオケなどの余暇活動、他事業所への社会見学等を実施しています。また、毎週月曜日には手芸ボランティアの方が来所し、作品制作で悩んでいる利用者にはアドバイスをしていたりしています。今後も松山荘の地域生活支援の拠点として、活動していきたいと思えます。

近くをとおりがかった際には、是非立ち寄ってみてください。

(地域福祉主査 深野 宏)

平成14年から宮古市宮町地区で活動してきた「宮町さぼーとセンター」は、平成22年7月1日に同市保久田に移転しました。宮町さぼーとセンターは、国道に面しており、交通量も多く事故の危険性があることや、松山荘を退所し地域生活をしている利用者の利便性を考え、街に近い所に移転しました。移転の際には、利用者、職員が丸となり、物品の整理や掃除を行いました。長年活動してきた場所でもあり愛着もあるので、最後に皆で茶話会をしながら感謝しました。

名称については、利用者から名称を募集したところ、「花」の名称が多く上が



熱心に作業に取り組む利用者

「共同生活事業所 ちふな」(宮古市)

「にしがおかホーム」開所しました！

■「私の希望するくら」

11月1日、共同生活事業所「ちふな」の4番目のケアホームとして「にしがおかホーム」が開所しました。メンバーは、松



入居者4名の笑顔！

ました。しかし、「案ずるより産むが安し」と言われるとおり、「番若い在宅の方から3人は、「お母さん」「おばあちゃん」「フーちゃん」と呼ばれ、和気あいあいと暮らしています。松山荘から地域生活に移行した女性の1人は、みだけ学園・松山荘と継続して39年間施設生活をしており、今回初めて地域生活を送ることになりました。彼女は体が不自由ながら、一昨年に1年間の居宅生活訓練を行い松山荘に戻りましたが、地域生活がしたいという希望がやっとなりました。彼女の例は彼女と同様に施設生活が長く、支援を要する方も希望すれば地域生活を送ることができるという

う、光明になったと思っています。

これからは、地域で安心して少しでも満足できるよう、ホームの世話人と協力して、4人の女性が年齢に合ったいきいきとした生活を送ることができるよう、そのお手伝いができればと思っています。

(サービス管理責任者 稲川 寿子)

山荘の居宅生活訓練を経た3人と、自立訓練センターからの1人の女性で計4人です。最初は、松山荘の退所者と、在宅の方との間で人間関係が大丈夫かと心配し

ジヨブコーチ奮闘記!

応援します、あなたの仕事!

現在、事業団において松風園、中山の園管理センターに1人ずつ配置されているジヨブコーチの活動についてご紹介します。

松風園



同じ目線で支援を行います

皆さんはジヨブコーチ(以下J.C)をご存知ですか。J.Cとは、「職場適応援助者」といい、障がい者の就労に当たり、できることとできないことを事業主に伝えるなど、障がい者が安心して就労できるように、職場内外の支援環境を整えることが主な業務です。

J.Cの業務内容は、主に次の4点が挙げられます。

① 対象者に対する職業生活全般にわたる指導・援助

- ② 事業主に対する対象者の雇用管理全般にわたる指導・助言
- ③ 家族に対する対象者の職業生活の安定のための指導・援助
- ④ 支援終了後のフォローアップの実施となっております。

障がい者の法定雇用率に関する法改正が昨年の7月に行われ、週20時間以上30時間未満のパート職員も企業の従業員の数に入ることとなりました。

現在、岩手障害者職業センター(以下センター)からの依頼を受け、センター所属の配置型J.C5人と社会福祉法人等所属の第1号J.C10人の計15人が連携しながら岩手県内の各圏域で支援を行っています。

(主任生活支援員 中島 透)

中山の園管理センター地域支援部

現在、私は二戸圏域を中心に10人の支援を行っています。障がいの種別や事業所での職種は様々です。

「対象者の数だけ支援の方法がある」といわれますが、本当にその通りだと感じています。



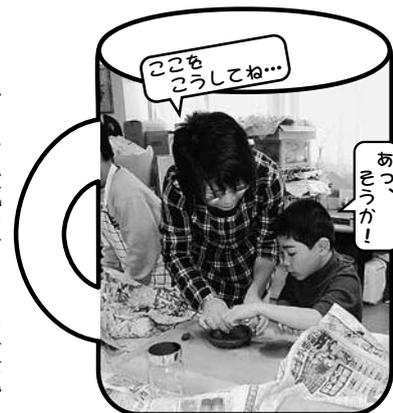
職場定着の道を相談します

今年度、二戸公共職業安定所を中心に各関係機関がチームとなり、圏域で障がいのある方の雇用を目指す取り組みを、試行的に行っています。事業所や障がいのある方が抱える様々な不安や生活面の課題等に対し、各機関が持てる能力を生かした対応が、いかに有効であるかを実感しています。

私は、J.Cになり3年目になります。職場定着への道は平坦ではありませんが、事業所、障がいのある方にとって良い環境作りができるよう、今まで得た様々な経験を生かし、今後も日々の支援に努めていきたいと思っています。

(非常勤生活支援員 入内嶋 真希)

「趣味の陶芸」始めませんか?



さくらでは、地域の方々との交流を目的に、陶芸制作の技術と設備を提供し、陶芸教室を開催しています。制作の楽しさを味わいながら、障がいを持つ方への理解を深めていただきたいと考えています。

今年度は、二戸町社会福祉基金からの助成金で、真空土練機と上薬を購入し、さらなる充実を図ったところです。

先日、浄法寺の「ほほえみ工房」様からの依頼で、25の方が陶芸を体験されました。「とても楽しかったので、ぜひまた体験したい」との声が寄せられ、スタッフ一同感激しております。

お一人様500円(粘土代、上薬、焼き上げ代含)と非常にリーズナブルな料金設定ですので、ぜひお気軽にお申込みください。

【電話】0195(35)2564

(主任生活支援員 三浦 克之)

やまゆり

大きな取っ手のついた居室の扉や洗面所の蛇口、トイレのカーテンなど、改修を終えた箇所を見て回ったり使い心地を確かめる方が多くいらつしやいました。



大きな取っ手がつきました

「開けやすいね」



使いやすくなりました

りんどう

トイレや洗面所、各居室等の工事を行い、また、改修工事とは別に、女子浴室に特殊浴槽が設置されました。この工事により、安心、安全なサービス提供に加え、快適な居住空間を少しでも提供できているのではないかと感じています。



新! 特殊浴槽



和室から洋室へ



中山の園 バリアフリー改修工事

安心! + 安全!

利用者の住環境の改善のためバリアフリー工事が7月から12月にかけて実施されました。中山の園の各施設は昭和53年度から57年度にかけて建設され、築33年が経過しました。多くの利用者が長年にわたり中山の園で暮らしていますが、高齢化に伴う心身の機能低下や身体障がいなどにより、車椅子利用者が年々増加傾向にあります。

このため、施設設備の改善が大きな課題となっていました。が高齢になっても安心、安全、快適に暮らせるよう、居住環境や設備の改修工事が実施されることになりました。

工事の主な内容は、車椅子利用者が安全かつ快適に利用するためのトイレ、洗面所の改修、緊急時の安全な避難のためのスロープの新設、起居時に移動しやすくするため、居室も和室から洋室への改修や静養室の改修、特殊浴槽の新設などです。暮らしの場がリニューアルされ、利用者の皆さんには大変喜んでいただいておりますが、今後も利用者のご希望や心身の状況に対応した施設設備の整備、改修に努めてまいります。

(中山の園管理センター 副所長兼総務部長 吉田 博)

かたくり

アイボリー系にまとまったトイレと洗面所が、明るくてとてもしっかりとしています。居室ハンガー戸も小さな力でスロープ開閉。寮棟内の雰囲気も様変わりし、利用者さん、保護者さんの笑顔がうれしいです。



男子の静養室



ピカピカ★女子洗面所

つつじ

男女各棟の廊下の壁・天井のペンキ塗り、洗面所・トイレ工事を行いました。改修前に比べ、利用者の方々が快適に、そして安全に過ごせる空間となりました。



改修前(ビフォー)



改修後(アフター)

「匠の技!!」

さくら

男女の玄関や非常口など7カ所のスロープの設置や、洗面所、デイルームを改装し、また女子棟のデイルームを居室に改装しました。新しいデイルームで新年を迎えることを楽しみにしています。



スロープができました



改装後の居室

「快適、快適」

さびし

男女各寮棟のデイルーム、畳居室のベッド化及び洗面所の改修工事が行われました。利用者さんの状態の変化に合わせて、支援方法と建物の改修の両面から改善に取り組んでいます。



きれいになったデイルーム



畳居室をベッドに...

「ご」利用者の高齢化対策 健康支援とコミュニケーション支援

つづじでは、利用者の皆さんの高齢化が進み、健康面に対する支援が必要とされる方が増えています。また、言葉での意思疎通を図ることが苦手な利用者さんもあります。そういった利用者さんへ適切な支援を提供できるように、職場研修での勉強会やカードを使った情報提供を行っています。

つづじに入所されている利用者さんの平均年齢は55歳と高く、また様々な疾病を抱えています。そういった状況の中で、利用者さんへ適切な対応を行えるよう、職場研修等では、診療棟から看護師を招き、利用者さんの体調の異常のサインの読み取り方、心肺蘇生法の手順、AEDの使用方法を学びました。また、介護福祉士養成テキストからチェック項目を抜粋し、疾病に関する知識について、職員間で勉強会を開いています。



看護師を招いて心肺蘇生法の手順を学びました

対人援助やケースワーク等の支援方法に



明日の外出先を伝えています

対しては、多くの研修の機会がありました。が、医療面については、十分な研修が行われる機会があまりありませんでした。利用者さんの年齢を重ねるにつれ、様々な病気を抱えています。そのため、利用者さん一人ひとりに個別の健康支援が必要であることから、職員間で日々学習を行っています。

言葉での意思疎通を行う事が苦手な利用者さんには、外食やドライブ、入浴など、カードを使って情報を伝えています。ドライブや外食する際には、その外出先が分かるカードを見てもらうことで、それまでソファで休んでいた利用者さんが飛び起き、玄関前に走っていく姿が見られました。ある日、居眠りが多いAさんへ食事のカードを見せると、ニコッと笑い職員が差し出した手を握り、食堂へ移動してくれました。視覚での情報提供の重要性を認識した瞬間でした。カードを使い、利用者さんへ分かりやすく情報を提供することで、生活の中に楽しみを増やすことができました。利用者さん側の視点に立ち支援を行うという、最も大事

で基本的な支援を、今後も続けていきたいと思っています。

(生活支援員 高橋 潤)



視聴覚障がい者情報センターの点字校正員佐賀善司さんが、本年度の「優秀勤労障がい者岩手県知事表彰」を受賞されました。佐賀さんは昭和57年から29年間にわたり点字校正員として点訳図書製作に従事してきたほか、点訳奉仕員養成の講師、小中学生や地域住民への視覚障がい理解と点字の普及啓発など、専門的に取り組んできました。全盲であるハンデを乗り越え、模範的職業人としての功績が高く評価され、今回の受賞に至ったものです。アフターファイブには、「ノーティボーイズ」というバンドのベイス担当としても活動中とのこと。今後のますますの活躍に期待しています。

(副所長 佐藤 信二)



長年にわたる功績が評価されました (向かって右が佐賀点字校正員)

ご厚意に感謝します 「ご」寄附・ご寄贈の紹介

寄附・寄贈申込者	採納日	採納施設	寄附・寄贈内容
青山婦人の会様	平成22年 4月9日	和光学園	30,000円 (現金)
イオン(株) ジャスコ前沢店店長様	平成22年 4月11日	たばしね学園	商品券76,500円分
㈱スターグループ 代表 山本 康平様	平成22年 5月18日	和光学園	50,000円 (現金)
㈱日配運輸 代表取締役 室岡 良信様	平成22年 8月10日	和光学園	150,000円 (現金)
㈱スターグループ 代表 山本 康平様	平成22年 8月13日	和光学園	50,000円 (現金)
㈱ショウエー 奥州営業所 所長 石岡 清様	平成22年 8月19日	たばしね学園	138,000円 (現金)
社協信用組合 ㈱オリエントコーポレーション様	平成22年10月19日	みたけ学園	図書券10,000円分
長松院女性部様 (部長 佐々木清子様)	平成22年10月19日	和光学園	90,000円 (現金)

(平成22年12月20日現在)

永年勤続表彰式



11月19日、平成22年度岩手県社会福祉事業団職員永年勤続表彰式が開催されました。今年度は、昭和60年度採用の8人の職員が、その長年にわたる功績を讃えられ、理事長から表彰を受けました。

受賞者代表の中道三七江副主幹兼生活介護係長(松風園)から、過去及び未来の事業団についての挨拶もあり、祝賀会の楽しい雰囲気の中、同じ目標へ向かって、それぞれの立場から進んでいく決意を新たにしました。

